

# れきしみち

2. そうだ！旅に出よう 収蔵資料から見る昔の旅行
4. 次回の特別展予告「まねるうつすつたえる」
5. 古文書から分かる村の暮らし（新連載）
6. 収蔵品紹介「人面文土器」
7. 安祥文化のさとではたらく人たち
8. 夏休み行事紹介、市民ギャラリーよりお知らせ

2016.07  
No.101



## 特集：そうだ！旅に出よう～収蔵資料から見る昔の旅行～

写真中央：絵葉書 / 朝賀大鱗画 駅構内の旅人(部分)、写真右：人面文土器



企画展 収蔵資料から見る昔の旅行

# そうだ！ 旅に出よう

【会期】平成28年7月23日(土)～9月4日(日)  
【場所】企画展示室 観覧無料 文責・三島一信

庶民の旅は室町時代の寺社参詣からはじまったとされます。江戸時代には物見遊山といわれる行楽が発達し、近代には、鉄道やバスによる交通網の発達に加わり、気軽に遠出の旅を楽しむことができるようになりました。

昔の旅は自然の景観を愛で、あるいは進歩に驚嘆し、その地の食べ物を堪能し、そこで土産を買って配る、今と同じようなことが行われていました。

市民から寄贈された資料から江戸時代の旅や近代の旅行、そして鉄道網が整った昭和の旅に関する資料を、テーマに合わせて展示します。

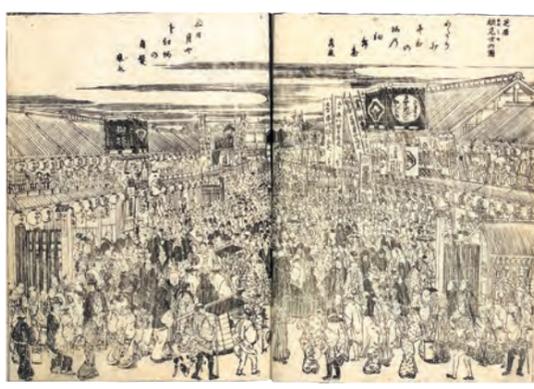
Q1. 江戸時代の旅は大変だったの？



東海道五十三次之内 岡崎矢作橋 (江戸時代後期)

東海道などの五街道だけではなく、脇街道といわれる多くの道が発達しました。街道沿いは宿場や茶屋などでも、道を利用する人々は必要最小限の荷物をもって旅行しました。江戸時代の旅は自らの足で目的地まで行くのが通常でした。写真のような馬や人足を使うのは贅沢な旅といえます。市域では真宗を信仰している人が多く、京都の本願寺や善光寺へ参詣した例が見られます。

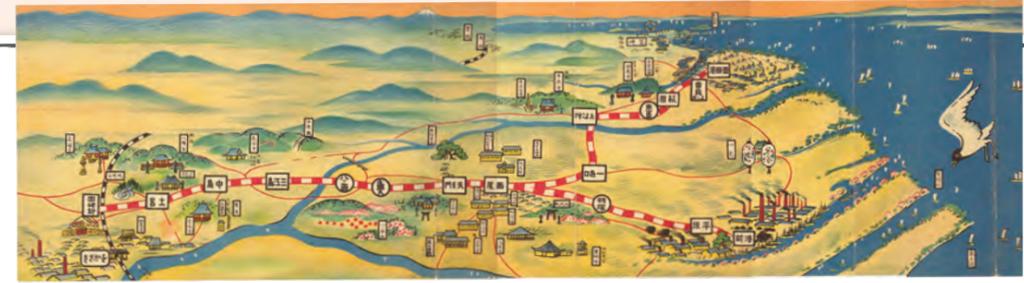
Q2. 安城から江戸に行くことがあったの？



東都歳時記 芝居顔見世 (江戸時代後期)

江戸時代の市域の人々は公用で江戸に行く機会が多くありました。江戸は現在の東京と同じく華やかで新しいものがあり、魅力的な都市でした。祭礼や寺社門前の賑わい、墨田川沿いの花見や花火、芝居小屋など江戸見物には様々なものがありました。江戸旅行の土産には錦絵が買いた求められ、江戸文化が地方に伝わるきっかけにもなりました。

Q3. 鉄道が出来てからの旅はどうだったの？



国鉄や省線といわれた現在のJR線だけでなく、明治後期から昭和にかけて私鉄やバス路線が各地にできました。今では廃線となった鉄道も沢山あります。鉄道沿線には気軽に楽しめる行楽地ができ、ちよとした一泊旅行や日帰り旅行が可能となりました。

Q4. 修学旅行はいつから始まったの？



修学旅行集合写真 日光東照宮陽明門前 (大正期)

近代になると列車で遠隔地へ旅行することができるようになりました。明治期には修学旅行が実施されるようになりました。定番の京都や奈良、東京だけではなく、伊勢志摩や日光なども対象となりました。写真は大正7年(1918)の岡崎中学校(現岡崎高校)の日光東照宮での記念撮影です。

Q5. 昔の旅の楽しみは？



新湯美人盆踊り (昭和前期)

兵庫城崎温泉 (昭和前期)

人によって楽しみは違いますが、寺社参詣、温泉、景観を愛でる、登山、海水浴、スキー、紅葉狩りなど枚挙に暇がありません。また、旅先の食べ物、特に旅の途中で味わう駅弁、お土産を買うことなどが挙げられます。写真にある芸者遊びなども「旅の恥はかき捨て」と言われるように羽目が外せる楽しみだったのではないのでしょうか。

こぼれ ばなし 錦絵ってどんなもの？



錦絵は浮世絵版画で、役者絵、美人画、武者絵などがあります。

### 企画展関連イベント

- 企画展記念講演会
  - 「招待旅行・新婚旅行・修学旅行―戦後日本の旅行文化―」
  - 【日時】7月23日(土) 14時～
  - 【講師】山本志乃氏 (旅の文化研究所研究主幹)
  - 【場所】歴史博物館 講座室
  - 【対象】どなたでも・無料
- 歴博講座
  - 「史料から見る昔の旅」
  - 【日時】8月20日(土) 14時～
  - 【講師】三島一信 (本館学芸員)
  - 【場所】歴史博物館 講座室
  - 【対象】どなたでも・無料

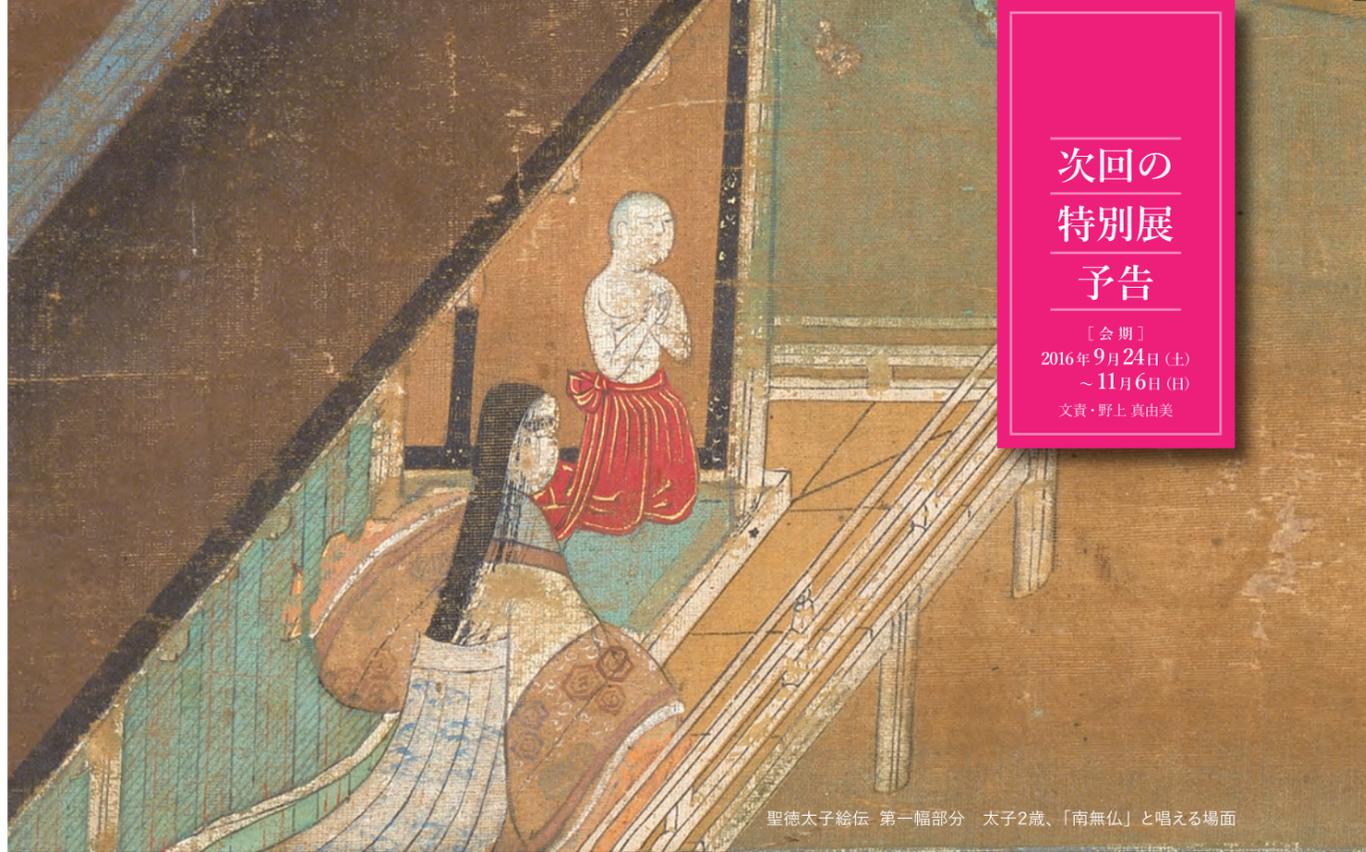
### ● 歴博イベント

- 「鉄道模型のジオラマ展示」企画展「そうだ、旅に出よう」の関連イベントとして、鉄道のジオラマ展示を実施します。現在では廃車となつているなつかしい車両なども走ります。
- 【日時】9月3日(土) 11時～15時
- 【場所】歴史博物館 エントランスホール
- 【協力】鉄道模型専門店 tail factory
- 【対象】どなたでも・無料



## 次回の特別展 予告

〔会期〕  
2016年9月24日(土)  
～11月6日(日)  
文責・野上 真由美



聖徳太子絵伝 第一幅部分 太子2歳、「南無仏」と唱える場面

## 聖徳太子絵伝模写完成記念特別展 「まねるうつつすつたえる」

本證寺（安城市野寺町）は平成27年度に国指定史跡となりました。鎌倉時代に創建された浄土真宗の名刹で、岡崎市の上宮寺・勝鬘寺とともに三河三か寺の一つといわれています。本證寺には古文書や彫刻など様々な文化財が残されています。



聖徳太子絵伝 第六幅部分 太子22歳、推古天皇即位の場面

その中でも、鎌倉時代後期に描かれた聖徳太子絵伝は、日本仏教の祖とされる聖徳太子の事跡を10幅にわたって描き、中世に制作された聖徳太子絵伝の中でも非常に重要なものであり国の重要文化財に指定されています。

安城市では、公開の機会を増やし、長期間の展示を可能にして多くの方に歴史的価値の高い絵伝をより身近に感じていただけるように平成22年から平成27年までの5ヶ年かけて愛知県立芸術大学に模写の制作を委託して、順次制作してきました。

今回の展覧会では、聖徳太子絵伝模写完成記念として、完成した聖徳太子絵伝の模写を一堂に公開し、さらに「まねること」「写すこと」をテーマに人々によって「伝えられ」てきたさまざまな仏教美術について紹介します。

### 特別展関連行事

- 歴博演芸場  
「絵解きフォーラムin安城」  
名古屋大学阿部教授による聖徳太子絵伝のレクチャーと三河スーパージョッキー座や大学院生による絵解きの実演を行います。
- 〔日時〕10月9日(日)13時～16時
- 〔場所〕歴史博物館
- エントランスホール
- 〔対象〕どなたでも・無料

### 体験講座

- 安祥城址公園イベント  
「PARK ヨガ」  
仏教同様インドから伝わってきたヨガを公園で楽しみます。人々によって伝えられたものに触れ歴史に思いをはせながら、イベント後には、ぜひ特別展にも足をお運びください。
- 〔日時〕10月8日(土)13時～15時半
- 〔場所〕安祥城址公園
- 〔参加費〕500円(特別展観覧券付)
- 〔定員〕50名(先着順)
- 〔申込〕9月20日(火)9時～
- 電話でお申込みください。
- 電話：0566-77-6655



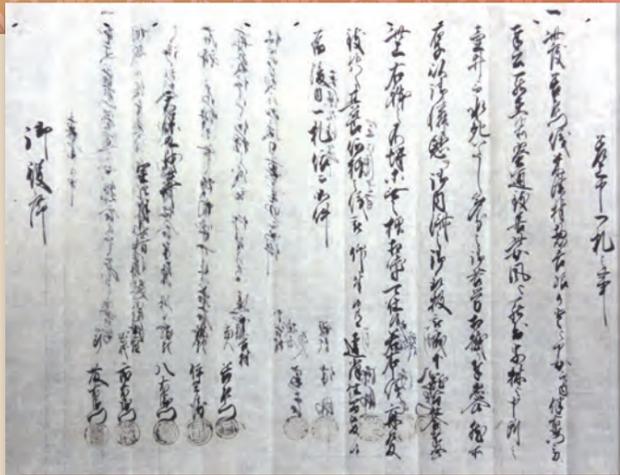
写真提供：イブ

## 古文書から分かる村の暮らし

### 村の事件簿

—り和水死事件—

文責：館長 高山 忠士



↑天保9(1838)年りと水死事件証文(菩提寺蔵)

←翻刻

差上申一札之事  
一此度善左衛門儀米津村惣吉娘りと与申女印内伴右衛門方三奉公罷在候処密通致居此女風与罷出字林与申所之壺井二而水死いたし多分之御苦勞相掛り奉恐入候然所厚以御憐愍ヲ御内済之御取扱被成下難有仕合奉存候此上右体之不埒等無之様相嗜可仕候若右之儀再免致候、其節何様之儀被仰付候共違背仕間敷候為後日一札依而如件

天保九戌年 下谷村  
閏四月十二日 当入 善左衛門(印)  
緑類 伊兵衛(印)  
緑類 八右衛門(印)  
五人組 惣代 市右衛門(印)  
同断 藤右衛門(印)  
御役所

先ず上の写真を見てください。

はじめに、何と書いてあるのかを活字に直してみましよう。翻刻といいますが、これでもよく分かりませんが、そこで、ちよつと現代風に意訳してみましよう。

まず、「差上申一札之事」ですが、内容から今風にいえば、下谷村の善左衛門さんが御役所に出した「始末書・誓約書」といったところです。善左衛門さんが「米津村惣吉さんの娘りとさん」と密通し、りとさんが壺井(小さな井戸)で水死してしまい、御役所に迷惑をかけたお情けで表沙汰にしないでくださいとお願いがとうございしました。もし次にこのようなことがあったら、その時はどんな処分をされようかと必ずそれに従います」と述べています。

りとさんが亡くなったのはまさに事件です。前途を悲観しての自殺かもしれませんが、善左衛門さんが既婚なのか、未婚なのか分かりませんが、連名している伊兵衛さんと八右衛門さんが、親兄弟ではなく、縁類(姻族)、であることを考えると、一家を構える既婚者で、



伊兵衛さんと八右衛門さんは善右衛門さんの奥さん方の関係者と考えられます。縁類としては、善右衛門さんのしたことは許せないかもしれませんが、家を守るために、連名で始末書を書いているのでしょう。

実はこの文書には、裏書きが添えられており、りとさんの関係者からの同様の内容のものになっています。さらに、桜井村の庄屋、組頭から米津村のお役所宛の文書の控えがあります。その内容を翻刻すると、

惣吉娘りと此村方三奉公罷在候所：壺井二而水死いたし候若世間二而何様之悪評相立候共水死二相違無之段何方迄茂罷出申開仕少茂御苦勞掛申間敷候為念一札依而

↑米津村役所宛文書

菩提寺には、このような当時の事件簿とも呼べるような、本来は村にあるべき文書がたくさん残されています。かつてお寺は、寺請制で庶民の身許を引き受ける立場でもありました。お寺と住民生活との結びつきは、今と比べられないほど密接でした。そんなわけで、このような村文書も、ちょうど現在貴重な資料が博物館に寄託されるような感覚で、後世お寺に託されたのだらうと思われまます。それにしてもこの事件を取り扱ったお役人さんはどんな人だったのでしょうか。新たな疑問がわいてきます。

安城市には、江戸時代の村々に伝わったたくさんの古文書が残っています。これらの古文書は崩し字で書かれているために、一見しても何と書かれているのかほとんど分かりません。しかし、村の人々は、必要があってこれらの文書を書き残しているはずで、ですから、何が書かれているのかさえ分かれば、当時の人たちがどんな暮らしをしていたのかが垣間見えるはずで、

そこで、「古文書!」「崩し字!」と食わず嫌いになるのではなく、「何が書かれているのだろうか?」と、好奇心を奮い起こして、古文書にアプローチしてみませんか。

今回は埋蔵文化財センターの整理室1・2で作業をしている出土品整理員の方に話を伺ってきました。この部屋では、発掘調査で出土した土器などを一つずつ水洗いし破片をつなげて形にするまでを行っています。

また、創作実習室で開催されている土器づくり教室の粘土を作るのも出土品整理員の仕事です。破片の水洗いのときに出た土や砂なども混ぜて粘土にしています。

<b>石膏入れ</b>	<b>接合</b>	<b>注記</b>	<b>水洗い</b>
破片の欠けている部分に石膏を流し込んでいきます。乾いたら形を整えます。	同じカードの破片、または近い場所の中から、同じ土器の破片を探し組み立てていきます。	カードの情報（遺跡名、遺構名、取り上げた日付など）を破片に記していきます。現在は機械で作業しています。	カード毎に、土器の破片などを丁寧に洗います。洗い終わったら4日間乾燥させます。

**Q1** どんな仕事をしているの？

発掘調査で出土した遺物は、発掘された日付、場所などでグループ分けされて埋蔵文化財センターに搬入されてきます。このグループの情報はカードに書かれています。

**Q2** この仕事の魅力はなんですか？

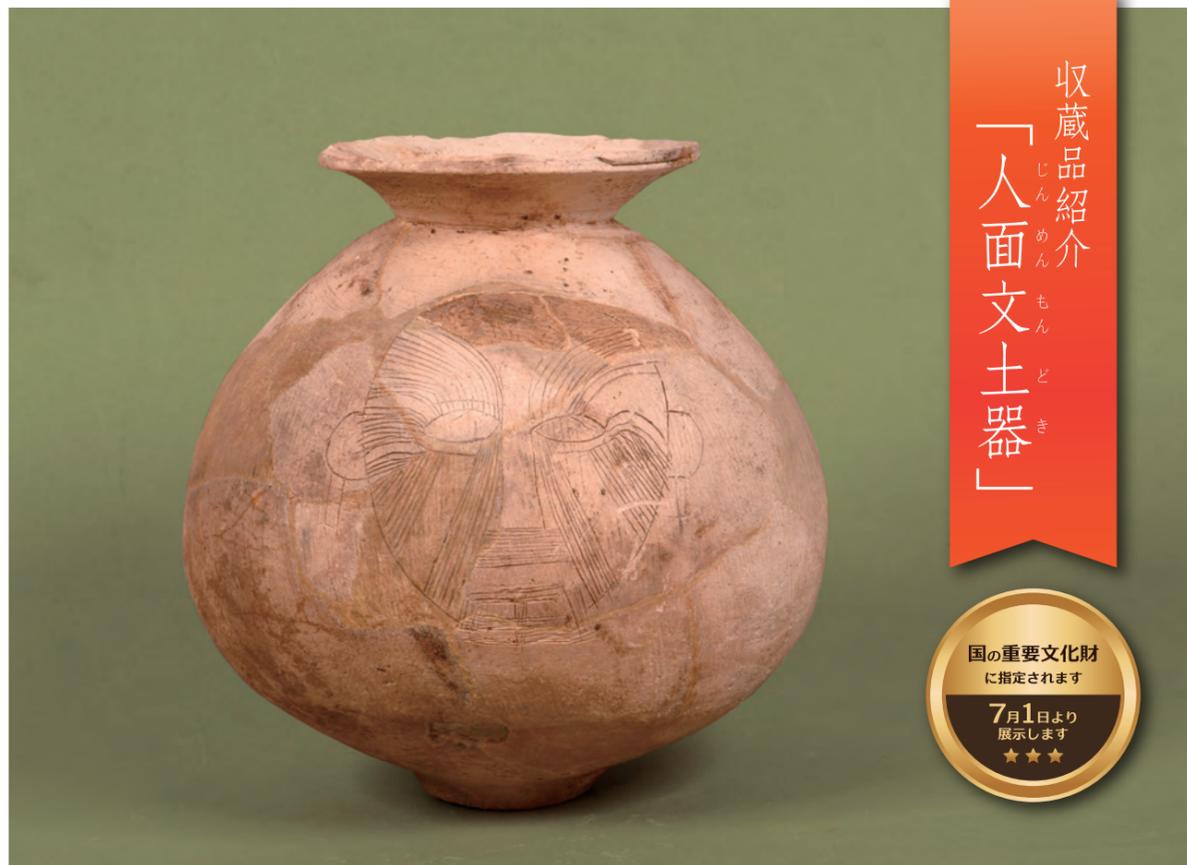
「破片を接合して段々形がわかってくるのが面白いです。線や絵があるものは、つなげていくと文字や絵が現れたりすることもありますが、別々の土器の破片だと思っていたものが、実は同じ土器の破片だった、なんてこともあるんです。ずっと残るものなので、愛情を持って作業をしています。」

**Topic** 人面文土器ごぼれ話

発掘された時は、破片の線の模様から、「金魚の絵かな？」という話もあったようです。

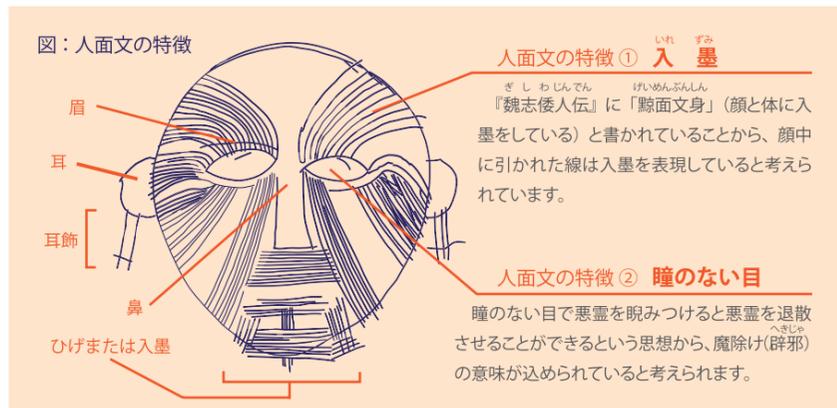
写真上：水洗い  
写真下：接合

安祥文化のさとでは  
はたらく  
人たちが  
埋蔵文化財センター  
「出土品整理員」



この写真の土器は、亀塚遺跡（東町）から出土した弥生土器です。土器の表面に注目してください。絵が描かれているのですが、気がつきませんでしたか。さて、なんの絵でしょう。考えるまでもありませんよ。そう、これは人の顔です。図のような特徴を持つ文様は「人面文」と呼ばれています。弥生時代後期に九州・瀬戸内地方で成立し、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけて東海地方へ、そして古墳時代前期には東日本に伝わりました。人面文の描かれた土器は、「人面文土器」と呼ばれています。人面文土器が出土している数はそれほど多くなく、全国をみると20数点しかなく、この人面文土器のように顔全体が分かるものはごく稀です。また、とても精緻に描かれている点で群を抜いており、弥生時代の風俗を物語る重要な資料です。

この人面文土器が出土した亀塚遺跡は、矢作川の支流である鹿乗川に沿って南北約4kmにわたり展開していた集落遺跡、鹿乗川流域遺跡群のほぼ中央に位置します。この遺跡群は、弥生時代終末期から古墳時代初頭には、北九州・北陸・関東など遠隔地との交流を盛んに行っていました。



現代のように発達した交通手段やきれいな道路も整備されていない頃に、数百kmも離れた場所とやりとりがあったなんて驚きですね。この人面文土器も、遠くから運ばれたものもたらされた品々や、それらを運んで来た人々の話からインスピレーションを得て作られたのかもしれない。（文責・後藤麻里絵）

安城市歴史博物館の7月～9月のイベント

要申込

体験講座

歴博演芸場

オリジナル風鈴づくり! 涼しい夏を

〔内容〕ガラスに自由に絵を描いたり、スタンプを押したりしてオリジナルの風鈴が作れます。  
〔日時〕8月11日(木・祝)10:00～12:00  
〔会場〕体験学習室  
〔費用〕500円〔対象〕どなたでも  
〔募集開始〕7月20日(水)9:00～



竹水鉄砲を作って遊ぼう!

〔内容〕竹を使って水鉄砲を作りましょう。作った後はみんなで遊びましょう!  
〔講師〕平野 周一 氏(造園職業訓練指導員)  
〔日時〕8月21日(日)10:00～12:00  
〔会場〕体験学習室〔費用〕300円  
〔対象〕小学生以上〔募集開始〕8月5日(金)9:00～

屋のお見茶会～美味しい日本茶の淹れ方～

〔内容〕十五夜にちなんでお見茶会を行います。美味しい日本茶の淹れ方がわかります。  
〔講師〕中根 めぐみ 氏(日本茶インストラクター)  
〔日時〕9月15日(木)10:30～12:00  
〔対象〕どなたでも〔費用〕500円〔会場〕体験学習室  
〔募集開始〕8月20日(土)9:00～

敬老の日に贈ろう!感謝の手作りメッセージカード

〔内容〕ペーパークイリングでメッセージカードを作ります。おじいちゃん、おばあちゃんに贈りましょう!  
〔講師〕山本 尚子 氏(ペーパークイリング講師)  
〔日時〕9月17日(土)10:00～12:00〔費用〕500円  
〔会場〕体験学習室〔対象〕小学生以上のお子さんと保護者の方〔募集開始〕8月20日(土)9:00～

沖縄を感じる伝統芸能～琉球エイサー～

暑い夏にぴったりの、沖縄を感じられる伝統芸能・琉球エイサーの団体による演奏と演舞です。皆さんと一緒に歌い・踊り楽しみましょう。  
〔出演〕愛知琉球エイサー太鼓連  
〔日時〕7月31日(日)14:00～  
〔場所〕安祥城址公園 石舞台  
※雨天 エントランスホール  
〔観覧〕無料(どなたでも鑑賞できます。)



申込：窓口または電話(0566-77-6655)で(1)講座名(2)住所(3)氏名(4)年齢(5)電話番号(6)参加人数をお知らせください。

# 夏休みは歴史博物館・埋蔵文化財センター・市民ギャラリーに行こう！

## 歴史博物館

### ● 夏休み自由研究相談会

歴史の自由研究を考えている方に、研究の進め方や参考になる本の探し方など、学芸員が相談にのります。親子参加も歓迎です。

〔日時〕7月28日(木)・29(金)・30(土)

10:00～15:00

〔場所〕歴史博物館

エントランスホール特設会場

〔対象〕小学校3年生～中学生

※当日先着順で受付をしますが、事前に日時を予約することもできます(7月16日(土)から電話受付)。希望する日時、調べたいことなどを電話で歴史博物館へ。

〔申込み・問合せ〕

安城市歴史博物館 ☎ 0566-77-6655

## 埋蔵文化財センター

### 夏休み子ども考古学講座

#### ● 古代の組みひもづくり

奈良の正倉院でも用いられた技術でオリジナルの組みひも「ミサンガ」を作りましょう。

〔日時〕7月23日(土) 13:00～16:00

〔定員〕20名(先着順)

#### ● 古墳時代の鏡づくり

古墳の中におさめられていた鏡のミニチュア型を使って合金で作しましょう。

〔日時〕7月30日(土) 13:00～16:00

〔定員〕10名(先着順)

講座  
共通  
事項

〔対象〕小学校4年生～18歳まで 〔会場〕埋蔵文化財センター創作実習室

〔参加費〕300円 〔申込〕6月23日(木)9:00～電話で受付開始(月曜日休館・7/18(月)は開館)

〔申込み・問合せ〕安城市歴史博物館内文化振興課文化財係 ☎ 0566-77-4477

#### ● 弥生時代の石包丁をつくろう

弥生時代にお米作りが伝来。稲の穂をかりとる道具の石包丁を作りましょう。

〔日時〕8月12日(金) 13:00～16:00

〔定員〕20名(先着順)

#### ● 縄文時代の石器をつくろう

縄文人も使っていた下呂石やサヌカイトで矢じりやナイフを作りましょう。

〔日時〕8月13日(土) 13:00～16:00

〔定員〕20名(先着順)

## 市民ギャラリー

### ● 陶芸講座「親子でろくろ」

〔内容〕親子で体験できる陶芸講座!土に触れながらろくろを回して器をつくる貴重な機会です。

〔日時〕7月30日(土) 9:00～12:00

〔講師〕加藤 克也 氏(陶芸家)

〔場所〕市民ギャラリー創作実習室

〔対象〕小学生とその保護者20組40名

〔受講料〕100円 〔材料費〕1,200円

〔申込み〕はがき(6月30日(木)必着)

### ● 夏休みキッズアートスペース1 「かんたん竹細工」

〔内容〕竹を編む技術や楽しさを味わいながら、簡単なかごづくりに挑戦します。

〔日時〕8月13日(土) 10:00～12:00

〔講師〕竹之内 勝氏(竹之内かご店 店主)

〔場所〕市民ギャラリー創作実習室

〔対象〕小学生以上15名

〔受講料〕100円 〔材料費〕400円

〔申込み〕はがき(7月29日(金)必着)

### ● 夏休みキッズアートスペース2 「親子で体験 パステル和(NAGOMI)アート」

〔内容〕パステルの粉を使い指や綿棒で描く独特の技法であたたかみのあるアート作品を作ります。

〔日時〕8月28日(日)

①10:00～12:00 ②13:00～15:00

〔講師〕浅田 奈美 氏(パステル和アートインストラクター)

〔場所〕市民ギャラリー創作実習室

〔対象〕小学生以上の子どもの保護者10組

〔受講料〕100円 〔材料費〕500円

〔申込み〕はがき(8月10日(水)必着)

講座  
共通  
事項

〔はがきの記入方法〕参加を希望する講座名(パステル和アートは参加を希望する時間も)・住所・氏名・年齢・電話番号・人数(1枚で「親子でろくろ」は3名、その他は2名まで応募可)・参加者全員の氏名を記入し、市民ギャラリーへ郵送 〔申込み・問合せ〕安城市市民ギャラリー / 〒446-0026 安城市安城町城堀30番地 ☎ 0566-77-6853

### 安城市市民ギャラリーよりお知らせ

## あいちトリエンナーレ 2016 モバイル・トリエンナーレ



ジョアン・モデ 「NET project」

#### 〔開催期間〕

平成28年

9/22(木・祝)

～9/25(日)

9:00～17:00

あいちトリエンナーレ2016の参加アーティストの作品30点が市民ギャラリーにやってきます!

名古屋や岡崎などのメイン会場では展示されない作品ばかりですので、この機会にぜひ最先端の現代美術をお楽しみください。

鑑賞ガイドツアーや野外展示、アーティストによるワークショップも開催予定です。

## 安祥文化のさと

安祥文化のさととは安城市にある松平氏四代 50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

#### 〔全館共通事項〕

住 所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地

休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

URL / <http://ansyobunka.jp/> 安城市歴史博物館

#### 安城市歴史博物館

開館時間 / AM9:00～PM5:00

TEL : 0566-77-6655 FAX : 0566-77-6600

#### 安城市市民ギャラリー

開館時間 / AM9:00～PM5:00

TEL : 0566-77-6853 FAX : 0566-77-4491

#### 安城市埋蔵文化財センター

開館時間 / AM9:00～PM5:00

TEL : 0566-77-4490 FAX : 0566-77-4491

#### 安祥公民館

開館時間 / AM9:00～PM9:00

TEL : 0566-77-5070 FAX : 0566-77-6062

